



Webversion



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2019年7月19日、ブリュッセル発

IDF が「酪農乳業の持続可能性見通し」第2号を発表 IDF RELEASES 2nd EDITION OF DAIRY SUSTAINABILITY OUTLOOK

持続可能な酪農のための事例研究の第2号は、進行中のプロジェクトへの見識と酪農乳業セクターにとって重要な持続可能性に関する新たな研究を関係者に提供します。

IDF（国際酪農連盟）は本日、[「酪農乳業の持続可能性見通し」](#)の第2号を発行しました。この出版物は、気候に中立な開発、生物多様性の改善、食品廃棄物の削減、酪農乳業セクターを通じた女性のエンパワーメント、持続可能な職場の創設、リサイクルと包装、循環型経済など、持続可能な酪農のための幅広い国内イニシアチブを描写しています。

最新の FAO LEAP 方法論や、健康な食事に関する研究、気候変動に対する畜産物の影響、そしてなぜメタンを他の温室効果ガス排出とは異なるように扱うべきかなど、世界規模での持続可能性イニシアチブの概説もあります。

「酪農乳業の持続可能性見通し」は、この分野の関係者にとって、酪農乳業セクターにとって重要な持続可能性プロジェクトに関する見識を共有する機会を提供します。これには、オーストラリア、カナダ、チリ、デンマーク、フランス、インド、オランダ、ニュージーランド、南アフリカ、イギリス、そしてアメリカを含む世界中の酪農サステナビリティ専門家による寄稿が含まれています。

IDF 事務総長キャロライン・エモンド氏は、次のように述べました：

「持続可能な開発は、政府、国際機関、そして民間部門と個人との間の協力にかかっている共同活動です。酪農乳業セクターは、国連 2030 アジェンダの「持続可能な開発目標」を達成する上で重要な役割を果たしています。IDF は、挑戦と機会を認識しており、「酪農乳業の持続可能性見通し」などの出版物を通じて、関連する科学的情報と適正な慣習を議論へ提供することを約束しています。」

背景

栄養および社会経済的改善目標を達成する目的での生産、加工および消費に対する乳および乳製品の寄与は、広く認識されています。酪農乳業セクターは、数年間にわたり持続可能な慣習におけるその主導的役割を認められてきました。環境への影響を減らし、資源を効率的に管理し、生物多様性と生物経済への利益を増やすための新しい方法を見つけることは、継続的改善のための酪農乳業セクターの関与の重要な部分です。酪農乳業セクターでは数多くの持続可能性イニシアチブが進行中であり、IDF はそれらの中から持続可能性に関する本セクターの活力を説明するために数点を選びました。

この「IDF 酪農乳業の持続可能性見通し」第 2 号は、酪農乳業セクターにとって重要な持続可能な開発に関する視点を提供することを目的としています。それは、酪農乳業セクターにとって重要な持続可能性と SDGs への貢献に関する進行中のプロジェクトと新しい研究を共有する機会をこの分野の関係者に提供します。

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。